

ぼうさい通信 Vol.14



熊本県立湧心館高等学校 平成30年9月14日発行

防災情報、スマホで見やすく 熊本地方気象台が専用HP開設

<https://www.jma-net.go.jp>

熊本地方気象台:スマートフォン向けHP

http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/ame_chuui/ame_chuui_p10.html

気象庁HP(台風について)

地震体験伝えよう 阿蘇市で若者世代が合宿



9月6日、北海道東部で震度7の地震が起こりました。大規模な停電、水や食料の不足など、2年前の熊本を思い出させる事態に胸が痛みます。亡くなった方のご冥福をお祈りします。

ニュースで盛んに呼びかけていましたが、「遠くからできる支援」もあるといいます。常に被災地に心を寄せ、自分たちができることは何か、考えていきましょう。

5班に分かれて実施したワークショップで、伝えたい災害体験について考える参加者ら＝28日、阿蘇市

熊本地震で被災した子どもらが体験を語り合い、未来への歩みを考える「ユース熊本地震を『語りつぐ』会」が7月28日29日の2日間、熊本県阿蘇市の国立阿蘇青少年交流の家であった。

地震後、県内で子どもたちの心のケア活動に取り組む兵庫のNPO法人などでつくる実行委員会の主催。南阿蘇村や甲佐町の小学5年～高校3年の22人と、ボランティアで熊本を訪れた県外の大学生ら6人が参加した。

実行委員長で防災学習アドバイザーの諏訪清二さん(58)＝神戸市＝が講演。災害を語り継ぐ意味を説明し、「つらいことも楽しいことも素直に語ればいい」と呼び掛けた。益城町と南阿蘇村の被災小学校の元校長らも当時の状況を話した。

ワークショップでは、諏訪さんの指導で伝えたい体験をそれぞれ検討。「人と人との関係が重要」「一番大切なのは普通の生活」などと紙に書いた。

南阿蘇中3年の北山将太郎さんは「何を伝えたいのか自分の中で整理し、将来の役に立てるよう体験を伝えたい」と話した。

実行委は12月、2回目の合宿会合を開く計画。(岡本幸浩)

(2018年7月29日付 熊本日日新聞朝刊掲載)

「ユース」とは「若者」のこと。
みなさんも熊本の未来に向けて自分
に何ができるか、考えてみよう。